



診療科
見学note 小児科

- クローズアップお仕事
患者サービスの最前線“医事課”
- news
設備管理室

特集 “がん”の予防から治療まで
～がんは検診による早期発見・早期治療が大切です～

- News Spot
がん診療のページを設置!!
松下記念病院
第2回 ふれあいまつり
- みんなで学ぼう!
松下記念病院のセミナー・講演会



池村 木戸脇 磯田部長 浅妻

小児科とは…

小児科は、おもに赤ちゃんから中学生（疾患によっては高校生以降も継続）の幅広い患者さまを対象として、発熱を呈するようなウイルス疾患やアレルギーなど主に内科的な病気の相談・治療を対象としています。また予防接種や発達段階の評価を行っており、当院は1か月健診と後期健診[生後9～11か月]を予約制で受付けています。（保育園入園時の健康診断は行っていません）

小児科の主な病気は…

発熱、せき、腹痛、下痢などの急な症状をしめす急性疾患（インフルエンザ感染症、ウイルス性胃腸炎など）のほか、食物アレルギー、ぜんそく（気管支喘息）、てんかん（けいれん発作）、また学校等の健康診断で発見された、心雑音、心電図異常、検尿異常、肥満や低身長などの相談を受けています。



保護者へのお願い



自分の症状を正しく訴えることのできないお子さんは、異常の早期発見や治療方針のために保護者の方々からの情報がとても大事となります。特に代理の方が付き添って受診される場合は、時間経過に沿った**メモやお薬手帳**などをお持ちのうえ、受診いただくとありがたいです。

ワクチン

小児の流行性疾患である水ぼうそう（水痘）、おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）、はしか（麻疹）、三日ばしか（風疹）については、ワクチン予防接種の普及によって、劇的に減少しました。また、小児期の重症疾患であった細菌性髄膜炎の原因となる、ヒブ、肺炎球菌の生後2か月からのワクチンで、急激にその発症者数を減らすことができたことが報告されています。ただしどのワクチンにも、低い

確率ながらも副反応がおきる場合があり、公的な保証制度が整備されています。

またワクチンを打っても免疫がつきにくい方や、ワクチンが不向きな人もいます。周囲の人々が積極的に予防接種を行い自分の抵抗力を高めることは、**予防接種の対策が有効でない身近な大切な人や見ず知らずの誰かを守る意義もあります。**

感染症に対する迅速検査の紹介

近年、インフルエンザ検査に代表される、迅速検査キットによる診断が適切な治療に有効で、無効な抗菌薬（抗生物質）を無駄に処方することが減りました。

抗菌薬の安易な乱用は、細菌の抗菌薬への耐性を促し、使える薬が無くなり 2050 年には年間 1000 万人の死亡が想定されるとして世界的な問題として取り上げられています。2016 年日本でも医療界をあげて **抗菌薬の適正使用に取り組み始めています。**



インフルエンザ

患者さまが**発熱して間もない時間帯**の検査では、「**インフルエンザ陽性**」反応が出にくいことがあります。診断されることで流行状況を正しくつかむことができ、登園・登校期間の制限や、学級閉鎖による集団感染の拡大抑制効果にも有用と考えます。



特効薬とされる抗インフルエンザ薬（タミフルやゾフルーザなどの飲み薬、イナビルなどの吸入薬など）については、解熱まで1日ほど早めてくれますが、登校は発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては3日）を経過してからです。また、今後も適切に使用しないと、薬剤に対する耐性ウイルスを作り出してしまふ恐れがあります。

溶レン菌（A群溶血性レンサ球菌）感染症

おもに3歳以上のお子さんから大人にまでみられる喉（のど）の細菌感染症です。適切に診断すると、**抗菌薬の治療が有効**です。症状がよくなっても処方された抗菌薬を指示された期間を守って服用することが大切です。また赤ちゃんの皮膚ただれの原因となり、湿疹の治療がきかない場合に、検査キットや皮膚の細菌培養検査で診断がつく場合があります。

マイコプラズマ感染症

発熱や長引くせきの原因として、主に小学生前後のお子さんを中心に流行する感染症です。かつては4年に一度のオリンピックの年に流行するといわれ、とくに喘息などの背景がない方にも**突然に肺炎をきたしてしまいます**。一般的な抗菌薬は有効ではないうえに、特効薬とされたマクロライド系抗菌薬に対する**耐性菌が2001年以降増加傾向にあり**、症状が長引きやすいことに注意が必要です。

当院は近隣では普及していない検査機器を導入し、マイコプラズマの遺伝子解析を行っています。**約1時間程度でマイコプラズマの診断ができ適切な抗菌薬治療を選択**できることが大きなメリットです。検査には年齢制限はなく、**平日午前の診療時間内**であれば、結果を当日中にお伝えすることも可能です。

アデノウイルス感染症、RSウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症

いずれもウイルス性疾患で**特効薬は存在しない**ですが、時間と共に病状が改善することが期待できます。抗菌薬は有効ではありません。高熱が続き、呼吸苦などの病状に注意し、感染を拡げないよう対策が必要です。

ヒトメタニューモウイルス感染症は肺炎が強く疑われる6歳未満のお子さんに保険が適応します。RSウイルスは1歳未満か、先天性心疾患やダウン症をもつ一部のお子さん、入院が決定したお子さんに保険が適応します。

腸炎ウイルス

（ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス）

ロタウイルスは乳児期の予防接種が普及したおかげで、重症化による入院や流行が劇的に減少しました。検査診断には、疑わしい便が含まれるおむつ（ビニール袋に封じて!）をご持参いただく場合があります。治療の特効薬は**いずれの腸炎も存在しません**。お世話するかたの手を介して拡がりますので、看護の際には**手洗いや汚物の適切な処理がもっとも大切**です。

ノロウイルスの検査は 60% 程度の判定で、結果が「陰性」であっても、その可能性は否定できません。またこの検査は、小児期は 3 歳未満と一部の免疫不全のかたに保険が適応します。

“がん”の予防から治療まで ...

～がんは検診による早期発見・早期治療が大切です～

“がん”の早期発見とがん検診

- がんは進行すればするほど治りにくくなる病気です。
- 多くのがんは早期に発見すれば約9割が治ります。
- 初期のがん症状がほとんどありません。

早期発見のためには定期的ながん検診を受けることが重要です。

がん検診の対象年齢と受診期間

がん検診	大腸がん検診	肺がん検診	乳がん検診	子宮がん検診
胃バリウム検査	便潜血反応	胸部レントゲン	マンモグラフィー検査	細胞診
40歳以上 年一回	40歳以上 年一回	40歳以上 年一回	40歳以上 2年に一回	20歳以上 2年に一回

“がん”は、禁煙や食生活・運動により

「なりにくくする(予防)」ことができます

がんの原因はひとつではありません、普段からの生活習慣が大切です。

- タバコを吸わないことが一番大事
- 積極的な身体活動
- 過度の飲酒はしない
- 適正体重の維持
- バランスの良い食生活

“がん”って何？

がんとは・・・

通常の細胞が、なんらかの原因で傷ついて異常な動きをする細胞に変わってしまい、その細胞が増殖することで腫瘍とよばれる状態になります。

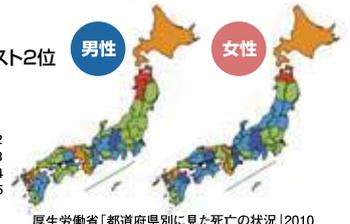
できてしまった腫瘍のうち、悪性のものを「がん」と呼びます、腫瘍が良性か悪性かは、その性質によって判断されます。

	全がん	胃がん	大腸がん	肝がん	肺がん	乳がん	子宮がん
全国※							
男	205.1	35.3	23.0	7.9	45.3	-	-
女	99.7	13.8	13.4	5.9	11.8	10.8	5.2
大阪府							
男	240.1	41.0	25.0	40.7	54.8	-	-
女	113.5	15.2	14.7	13.1	15.3	11.4	5.5
北河内							
男	226.8	38.6	22.9	34.8	53.6	-	-
女	111.9	14.6	14.9	11.9	14.5	12.2	5.5

※全国は平成14年値 (「大阪府における成人病統計(58)」平成18年3月大阪府健康福祉部)

大阪はがんの死亡率が
男性ワースト4位、女性ワースト2位

男性	女性
全国:182.4	全国:92.2
■ ~161.9	■ ~85.2
■ 162.0~175.4	■ 85.3~90.3
■ 175.5~188.9	■ 90.4~95.4
■ 189.0~202.4	■ 95.5~100.5
■ 202.5~	■ 100.6~



がん(悪性腫瘍)の特徴

- 勝手に増殖する
- 体のあちこちに転移し、新しいがんをつくってしまう
- がん組織は、正常組織の摂取しようとする栄養を奪ってしまい、体が衰弱する

“がん”の種類

■ 上皮細胞から発生するがん

上皮を構成する細胞を上皮細胞といい、**胃がん・肺がん・乳がん・大腸がん・子宮がん(主な5大がん)**・肝臓がん・膵臓がん・卵巣がん・頭頸部がん(喉頭がん・咽頭がん・舌がん)があります。

■ 非上皮性細胞から発生する肉腫

骨や筋肉などの非上皮性細胞から発生するがんを肉腫といい、骨肉腫・脂肪肉腫・繊維肉腫等があります。

“がん”の治療は“治療の効果を最大限に得ること”と同時に “体への負担を最小限にすること”が大切

- がんの治療は技術の進歩や医学研究の成果とともに変化します。
現時点での科学的な根拠に基づいた最もよい治療のことを「標準治療」といいます。
- 標準治療は『手術』『薬物療法』『放射線治療』をそれぞれ単独、もしくは組み合わせた方法で行われます。

手術

がんを外科的に切除します。切除する範囲を小さくしたり、手術方法を工夫し、体への負担を少なく、治療後の合併症を最小限にするように手術の方針が決められます。

必ずしも
「完治=退院」ではないことを
心にとどめておいてください



効果と副作用の
様子をみながら続けます

薬物療法

化学療法(抗がん剤治療)・ホルモン療法(内分泌療法)等、薬物を使ってがん細胞の増殖を抑える治療です。錠剤やカプセルなどの「のみ薬」の方法と、「点滴や注射などで血管に直接抗がん剤を注入」する方法があります。



放射線治療

放射線を照射することによって、がん細胞の増殖を抑えます。放射線治療の利点は、手術で体に傷を付けることなく、がんを小さくする効果を期待できることですが、がんの種類によって放射線治療の効きやすさや治りやすさは大きく異なります。



緩和ケアは“がん”の治療と一緒に始めます

緩和ケアとは、重い病を抱える患者さまやその家族一人ひとりの身体や心などのさまざまなつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるよう支えていくケアです。

さらにわかりやすく一言でいうと「病気に伴う心と体の痛みを和らげること」となります。

がん患者さまやご家族の方は、がんと診断されたとき、治療の経過、あるいは再発や転移がわかったときなどのさまざまな場面でつらさやストレスを感じられることと思います。

緩和ケアでは患者さまと家族が自分らしく過ごせるように、医学的な側面に限らず、いろいろな場面で幅広い対応をしていきます。

「医事課」とは、医療に関する請求事務を扱う部署で、病院に来院した方が最初に対応するのが医事課の職員です。

業務内容は受付や電話対応、診療費（入院・外来）の計算、診療報酬明細書（レセプト）を社会保険や国民健康保険等に請求を行う部署です。

外来医事業務

- 患者登録、外来カルテ作成、診察券作成を行う「初診受付」
- 保険変更手続き、数年ぶりに受診する患者さま、診察券を忘れた患者さまのための「再診受付」
- 患者さまが受診した診療科で行った診療内容を算定し、診療費の請求を行う「計算業務」

病院に来られた患者さまが最初に訪れる医事課カウンターでは、痛みや不安などを抱えて受診される患者さまに少しでも和らいでいただける言葉掛けを心がけています。

また毎年、患者満足度調査を実施し、ご希望に少しでもそえるよう診療待ち時間の短縮および患者サービスの向上ならびに業務の改善に繋げています。受診受付については、再診受付機を導入し待ち時間を解消する取り組みを行っています。

再診受付機操作に不安のある方は、近くスタッフにお声をかけてください。



医事課カウンター



会計窓口



再診受付機

入院医事業務

- 入院診療費[※]（DPC/ PDPS）の算定・請求を行っています。
※「DPC/PDPS」とは、病名や手術処置によって、費用が決まる支払方式

保険請求業務

- 会計窓口で自己負担額をお支払いされた以外の診療費を 1ヶ月の診療内容にまとめた診療報酬明細書（レセプト）を作成し、保険者へ請求するとともに、診療報酬の査定、請求漏れ防止に取り組んでいます。
この保険請求業務が医事課職員の専門性を生かした中心的な業務です。

医事統計業務

- 保険請求業務などから得られるデータを統計として取りまとめ資料報告しています。

この他に、各種診断、書類の受付なども行っています。



計算業務



文書受付

～皆さまに安全かつ快適・衛生的な環境をご提供するため日々努めています～

設備管理室とは・・・

病院地下1階に設置、365日24時間体制で総員10名・常勤3～6名、夜間体制も整えています。

院内に設置している計器類の検針や各種機器の管理などが主な業務で、大きな故障や修理や法律で定められている定期的なメンテナンスも実施、また災害等が発生した際の電気・ガス・水道などのライフラインが止まれば入院患者さまの命にもかかわるため、早急な復旧対応を心がけています。

機械と接する業務が主体のため、『縁の下の力持ち』のような部署になります。



主な資格

- 建築物環境衛生管理技術者
- 電気工事士
- 電気主任技術者
- ボイラー技士
- 冷凍機械責任者
- 消防設備士
- 危険物取扱者



設備管理員の業務って何？

人に、街に、明るい未来を
関電ファシリテーズ

● 日常点検

病院の中にある設備・機器の点検・清掃を行っています
点検によって事故の防止や異常の早期発見が可能になり、応急対応をする事で病院内の環境に影響を与えないよう努めています
(主な設備：受電設備(発電機等)、ボイラー、エアコン、給排水ポンプ、医療ガス設備等)

- **定期点検** 日常点検に加え、消防設備(非常放送、放水、ホース、消火器等)や電気設備の定期点検(停電作業)といった法律で定められた点検も実施しています
電気設備の点検では停電による影響を最小限に抑えるために数か月前から準備し、病院内各部署と調整をした上で実施しています
- **運転監視** 電気設備や空調設備、給排水設備の運転状況を監視しています
特に空調設備では室温の変化が無いかを常に確認し、適切な温度管理による効率運転と快適な環境を維持するよう調整しています
- **営繕対応** 蛍光灯の交換、トイレなどの水回りの故障、建具の調整といった軽微な修理をスタッフステーションなどから依頼を受け対応しています
- **緊急対応** 災害が発生した際にライフラインの復旧のために一次対応や業者手配をします
また、エレベータの緊急停止時などは状況に応じて救出できるよう、定期的に訓練を実施しています

松下記念病院ホームページ
がん診療のページを設置!!



トップページに“がん診療”のボタンができました



がん診療について
 がん相談支援室や
 がん治療・緩和ケアに
 ついて掲載しています
 ぜひご覧ください

11月30日(土)
10:00~16:00

参加費無料
イベントを開催します

Open Hospital

第2回

松下記念病院
ふれあいまつり

～見て！触って！やってみる！
 健康って？病院って？みんなで学ぼう！～

**みんな
 で
 学ぼう！**

市民健康セミナー

日 時：2019年11月28日(木)
 14:00～(13:30受付開始)
 場 所：松下記念病院 講義室
 テーマ：誰も知らない常識！
 心臓リハビリテーション

**松下記念病院
 門真市立生涯学習センター 市民公開講座**

日 時：2019年10月26日(土)
 14:00～16:00(13:30受付開始)
 場 所：門真市民プラザ 生涯学習センター
 1階 視聴覚室
 テーマ：今、あなたが・家族が倒れたら！？
 緊急事態に備える！
 転ばぬ先のXXXセミナー

